ISSN 0388－5569
VOL. 8 No. 3
（通巻24号）
1987. 10

Library News

山口大学附属図書館報

目次

死海写本に事寄せて　緒方幡典……1
オンライン情報検索システムの利用について……3
《お知らせ》
閲覧室に蔵書検索用端末機を設置…5
学術情報センター等文献情報データベースの代行検索サービス開始…5
寄贈図書……6
人事異動……6
日誌……6

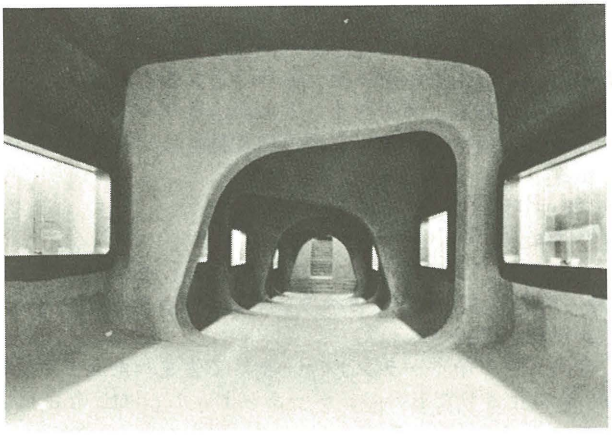
死海写本に事寄せて

緒方幡典

以前この附属図書館報で、死海写本にふれたことがある（Vol. 4 No. 3. 1983）。1981年メキシコ市で第7回国際生物物理学会が開催された時、ポスターセッションの一つに死海写本の研究発表があった。それは写本の羊皮紙を研究材料として、物理的・化学的分析した結果を示していた。前回はそれを糸口に、記録とその保存について雑感を述べた。この学会は3年に一度催され、第9回はイスラエルのエルサレムで行われた。この機会に写本の実物を観ることができたので、見聞を兼ね心に浮かぶまま書き綴り、本館報投稿の依頼にお答えする。

死海写本は1947年、死海西岸クムラン洞窟で発見された。書かれた年代は前100～前50年頃と推定されている。その主なものは(1)イザヤ書を含む旧約聖書の写本および注釈と、(2)宗規要覧等後期ユダヤの文章を内容にもつ、七つの巻物である。最初これらの巻物の内、半数以上はヨルダン国側にあるシリア正教の聖マルコ修道院に買い取られ、その後アメリカに持ちだされたが、現在はすべてエルサレムのイスラエル博物館にある。以上のような経緯を辿ったこともあって、博物館では特別に配慮された別館に収められている。

この博物館は学会場となったヘブライ大学に近接し、徒歩で約10分の距離にある。学会2日目午前のポスター発表を観、その足で博物館に向かった。入場口を通って本館に向かう長い通路の右側に、パゴダを思わせるドームがある。入口は一旦地下に降りたところにあり、そこから洞窟のようなトンネル（写真）に入る。トンネルの左右には写本に関する発掘や歴史的な資料の解説があり、そこを通るうちに、写本を観るための予備知識が、入場者の頭の中にしだいに蓄積するように図られている。トンネルを抜けると広いドームに出る。中央に一段高い円型の台があり、そこに最も長い、また保存状態の良い写本（イザヤ書全文）がある。この羊皮紙は直径約3米のコマのようなケースに納められ、人は目の高さに在るコマの帯に巻き付けられた写本を、廻りながら観ることができる。入館した時、見学者は殆んどなく、時間をかけて丹念に観



ることができた。羊皮紙なるものはこれまで見たことがなく、皮と云えばカバン、靴などしか知らない筆者にとって、それは皮と全く異なった素材に思えた。写本は永い年月を経たにもかかわらず、紙幣の新札のように薄くすべすべしてやや硬い、また非常に丈夫な紙のように見えた。写本は発見された時、書かれた頃の保存方法にしたがい、壷の中に納められていたこと、死海地方の乾燥した洞窟に置かれていたことで、湿気による腐敗を完全に防いでいた。今この博物館にあって、保存のためのあらゆる条件が検討され実行されているのであろう。たとえば、照明は全体として非常に暗い。イザヤ書写本の外にも幾つかの傷んだ資料が、ドームの壁側に別々のケースに納められてある。それらはケースに付いたボタンを押すと数十秒間、説明がどうにか読める程度に明かりがつく。光の資料におよぼす影響を最小限に止める配慮がなされているのであろう。

イザヤ書は旧約聖書中、三大予言書の一つと云われる。書物により歴史的にみると、この書はヘブライ人のバビロニヤ捕囚期を挟んで、それ以前と以後との三期に、それぞれ別々に成立した預言書から成り立っている。そしてそれは異なった預言者による。第一イザヤは南北王国の平和な時代にあって、人々の堕落をいましめ、民族の結束を説いたが、北王国は前721年アッシリアに滅ぼされ、南王国は後に新バビロニヤに征服された。人々はバビロニヤ捕囚末期、ペルシャ王により前538年解放されたが、この解放を挟んで第二イザヤは説く。解放されても現地に同化してしまい、荒廃した故国に帰ろうとしない民に呼びかける。エルサレム帰還後、精神的・物質的貧しさが人々の無気力を誘う。第三イザヤはこの沈滞した民の心に希望の火を点ずべく呼びかける。イザヤ書はメシアの出現を待望する書でもある。ユダヤ人は、メシアは未だ到来していないとしている。エルサレム旧市街の東、市街を一望できる丘に、ヘブライ文字を刻んだ蓋をもつ大きな石棺が所せましと並んでいる。メシアは東から来るとの伝えにより、一刻でも早く巡り合うことを望んで、ユダヤ人は死後の体をこの場所に横たえる。案内人はこう説明した。案内人はヘブライ大学に席をおく日本人学生であった。イザヤのような預言者の言葉に加えて、伝説や神への讃歌を集めた旧訳聖書は、ギリシア古典とともに、ヨーロッパ人の精神の糧として、その思想、芸術の大きな源流となっていることは衆知のとおりである。

死海写本に書かれた文字は勿論、ヘブライ文字である（〈創世記外典〉だけはアラム語）。この文字は前1000年ごろイスラエル王国が建国されたとき用いられたヘブライ語を表すものである。ヘブライ語はエルサレムの陥落とともにしだいに衰え、日常では用いられなくなり、文語および宗教語として残った。今日、イスラエルの建国にあたり、それは新ヘブライ語として復興した。空港から市内にいたる看板、道路標識はすべて新ヘブライ文字で書かれ、時折その下に英語が添えてあった。またヘブライ大学の書店では、ヘブライ文字で印刷された書物のみが売られており、その数・種類とも普通の学内書店とほぼ変わらないように見えた。

今回の学会で予期しない人に出会った。16年前カリフォルニア工科大学に留学したとき、同じ研究室にいたThomas Lobl博士である。氏はユダヤ系の血を引く方で、長男の出産にあたり、割礼の式に私共を招待してくれた。今回の学会にはその息子と次男、妻との四人づれで米国から来ていた。私の在米時、互いに招待し会食を楽しんだが、ある時氏の家で、ヘブライ語で書かれた聖書を見た。表紙の傷んだいかにも使い古したもので、御母堂愛用の本だったそうだ。Lobl氏は、自分はほとんど読めないが大切にしていると云っていた。今回も氏の家族と昼食を共にしたが、新ヘブライ語について尋ねたところ、イスラエルは科学用語等を取り入れるなどして、現代化に大変な努力をしていることは認めるものの、アメリカに籍を置く氏は、これを学ぶつもりはなさそうに見えた。

私の本棚にエスペラント語で書かれた旧約聖書がある。エスペラントの創始者ザメンホフがヘブライ語で書かれた原典から訳したもので、名著と云われている。その中最も麗わしいとされる伝導の書（La Predikanto）は次のように始まる。

Vantaĵo de vantaĵoj, diris la Predikanto;
Vantaĵo de vantaĵoj, cio estas vantaĵo. ……
（伝導者は言う、空の空、空の空、いっさいは空である。）〔日本聖書協会1955年改訳〕

日本語の訳と違って原典は恐らく響きの良い文体であろう。エスペラント訳を声を出して読めば、それに応じた配慮がなされているのではないかと思わせる。

ザメンホフは1859年東欧リトワニア（当時ロシア領ポーランドの一部）で生まれたユダヤ人で、のちに眼科医となる。ロシヤ農奴制は1861年廃止されたものの、ポーランド人たちは圧迫され、

学校ではロシア語を使うことが強制されていた。そこには、リトワニア人、ポーランド人、ロシア人、ドイツ人、ユダヤ人などが混ざり合って住んでいた。当時この町では、言葉の違いがもとでおきる争いが絶えなかった。このような状態が少年ザメンホフに共通の言葉を創案させたと云われている。しかしザメンホフが国際語を創案したのは、氏がユダヤ人の血を引いていたことに大きな要因があるのではないだろうか。ユダヤ人は2000年もの間国を追われ、流民としていわれない偏見と差別を受けてきた。氏は言葉による偏見差別について深く思索したものと思う。

1878年に国際語エスペラントの草案が完成発表され、今年でちょうど100年になる。この夏ワルシャワで催された100周年記念大会には73ケ国6000人の人が集まったと報ぜられた。ユダヤ人ザメンホフの創始したエスペラント、2000年を経て現在イスラエル国に復興した新ヘブライ語、いずれも今後それぞれの歴史を綴るであろう。

付　医学図書館の東側にエスペラント語で書かれた小さな碑がある。解剖学の碩学、故西成甫先生の筆によるもので、ザメンホフの詩の一節だ刻まれている。

Ni semas kaj semas neniam laciĝas,
Pri l'tempoj estontaj pensante.
(われわれは　ひとときも　疲れることなく　種を蒔き　また　蒔く、
これから来る　時代のためにと　思いつづけて。)

この碑の由来について、粟屋現学長が、医学部で解剖学教授として在席されたころ、解剖学雑誌（53巻（1978）151頁）に載せられた。　（医療技術短期大学部教授）

オンライン情報検索システムの利用について

昨年の春だったか図書館のカウンターのそばで、たまたまお会いしたA教授が、「今後は図書を購入するより、データベースを利用することが多くなるだろう。図書館へ足を運ぶことが少なくなるだろう。」とこれまで図書館サービスの硬直化を歎かれておられた方から、電算化の発展により図書館利用者が質的に変化していることの指摘があり、図書館の未来について大いに考えさせられました。

「紙からエレクトロニクスへ」の移行状況は、年々促進されていると云えます。自然科学系の二次文献で最もよく利用されるChemical Abstractsを編集しているCASは、1961年Chemical Titlesを磁気テープで発行したのが、本格的なデータベース化の発端だと推察しますが、わが国には現在約100社のデータベースサービス企業があり、その取り扱っているデータベースは約1,700（内国産データベースは約300）タイトルに上っており、今後も幾何学的に急増するものと予測されます。しかし、私達が必要とする学術研究のデータベースは、必ずしもそれら商用データベースに網羅されているとは限りません。特に国産のデータベースの開発が待たれています。

本年4月、学術情報センターが情報検索サービス（NACSIS－IR）を開始しました。それは、自然科学、社会科学、人文科学の広範囲な領域の研究者や学協会の協力のもとに、オリジナルな学術データベースを形成するとともに、既成のデータベースのうち学術研究にとって有用なものを導入し広くオンライン検索サービスを安価に提供するものであり、また高度な専門性の故に市場性の乏しいものや複雑な情報構造を備えたデータベースも、遅滞なく構築・提供することを目指すものです。また既に、全国共同利用大型計算機センターを持っている7大学（北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学）および筑波大学等では、自分の大学のユーザーばかりでなく他大学のユーザーにもオンライン検索サービスを安価に提供しており、国文学研究資料館も本年4月からオンライン検索サービスを開始しました。これら山口大学の研究者等が安価（商用の1/5程度）で利用できるデータベースの数は、現在約140近くあります。

国立大学関係のデータベースをオンラインで検索するには、NTTの公衆回線や第2種パケット交換網を使用し直接接続する方法もありますが、国費支弁する山口大学のユーザーにとっては、N－1ネットワーク（NTTのDDX網を利用した大学間コンピュータネットワーク）を使用し、山口大学情報処理センターを経由し接続する方が安価で便利です。N－1ネットを利用するには、山口大

学情報処理センターに利用申請を行い、更に全国共同利用大型計算機センターの一つに利用申請を行って利用者番号の交付を受けて下さい。筑波大学および国文学研究資料館を利用するには、更に当該機関の利用申請の手続きが必要です。研究室にパソコン等をお持ちでない方やオンライン検索に不慣れな方には、図書館で従来からのDIALOGシステムの検索と同様「代行検索」を行いますので、参考係まで申し出て下さい。

1963年、アメリカ大統領の科学諮問委員会は、「情報の伝達は研究・開発にとって欠くことのできない部分であり、研究・開発にたずさわるすべての科学者、技術者、研究所、学協会、政府機関は、研究・開発に課せられた責任と同様に、また同程度の意欲をもって、情報伝達に対する責任を果たさねばならない。」と述べ、情報伝達が研究・開発にとって如何に重要な地位を占めているかを強調しています。オンライン情報検索は、特に地方の研究者にとっては、自分の専門分野の進歩に遅れないようにするための有効なテニックと考えます。学術研究に必要なデータベースはまだまだ不足していると思いますが、ユーザーの積極的な利用と要求によって各種の利用条件が整備されていくものと考えます。

学術情報センター、全国共同利用大型計算機センター等の「データベース利用の手引」を参考係にも備え付けてありますので、ご利用願います。現在、全国共同利用大型計算機センター等が公開している人文社会系のデータベースは別表の通りです。　　（図書館専門員　松本敬吉）

全国共同利用大型計算機センター等人文社会系データベース一覧

大学名	データベース名	データの内容
北海道大学	ALTS	農業経済長期統計データベース
	HEAD	経済、経営データベース
筑波大学	AHCI	Arts and Humanities Citation Index
	CDI	Comprehensive Dissertation Index
	CIJE	Current Index to Journals in Education
	EDMARS	Educational Document Management and Retrieval System
	JEDI	Educational Dissertation in Japan
	LISA	Library and Information Science Abstract
	PA	Psychological Abstracts
	RIE	ERIC Resources in Education
	SSCI	Social Sciences Citation Index
京都大学	CHINA1	中国明代の科挙合格者に関する情報
	CHINA2	中国唐代の詩人李商隠南文章
	ERIC	教育学、教育関連の文献情報
	MUROMATI	室町幕府が発給した文章のうちの奉行人奉書情報
	POLEM	諸外国の政治、立法過程第一資料の情報
学術情報センター	HBR	Harvard Business Review誌全文データ
	JPM	国立国会図書館全国書誌
	LCMB	米国議会図書館全国書誌（図書）
	LCMS	米国議会図書館全国書誌（雑誌）
	JSCAT	学術雑誌総合目録和文編
	FSCAT	学術雑誌総合目録欧文編
	KAKEN	文部省科学研究費研究成果報告概要
	GAKUI	我国大学授与博士学位論文索引
国文学研究資料館	KOKUBUN	国文学研究資料館所蔵マイクロ資料目録・和古書目録

《お知らせ》

閲覧室に蔵書検索用端末機を設置

図書館では従来から電算化を進めてきましたが、10月12日（月）より、利用者の皆さんが目録データを自由に検索できるよう、本館閲覧室参考カウンター横に端末機を設置することになりました。

この検索システムの特長として、①多面的な検索が可能なこと、②検索された資料が貸出中であることやその配架場所などの所在情報の即時表示、③操作の簡便性、などがあげられます。

・多面的検索という点では、従来のカード目録の、著者名、書名、分類番号からの検索ばかりでなく、書名のなかのキーワード（重要語）からも検索できます。従って、正確な書名を忘れた場合でも、その一部をおぼえていれば検索できます。例えば、『占領下のパリ文化人』という書名の図書は「パリ」ということばから検索できます。

所在情報の表示という点では、他の利用者に貸出されている図書は画面に「貸出中」と表示され、一目瞭然となります。従来のカード目録ではこのような対応は非常に困難でした。

操作の簡便性では、画面の指示に従って、検索語のみをキーボードから打っていけばよく、コマンド（命令語）を入力したり、多くの選択肢から選んだりする必要はありません。

・検索できる資料は、昭和62年４月以降に図書館本館に受入れられた図書で、10月１日現在では6,073冊となっています。

図書ばかりでなく、63年４月には本館で受入れられている雑誌も検索できるようになる予定です。

また、近々、開架図書約６万冊の目録データ遡及入力プロジェクトが実施される予定ですので、一、二年後には検索可能な資料が飛躍的に増加する見通しです。

設置される端末機の台数は、現在のところ１台ですが、来年度には二、三台を設置できるよう検討しております。

なお、62年度以降受入図書については、端末機による検索だけでなく、電算機から打出した分類順リスト、書名順リストも作成しておりますので、併せてご利用下さい。

端末機による検索のしかたは、ディスプレイ画面の指示どおりに操作すればよいのですが、端末機のそばに『検索の手引き』を用意していますのでご覧下さい。実際に利用してみて分りにくい点、改良すべき個所など、お気づきのところがありましたらどうぞ係まで声をお寄せ下さい。

学術情報センター等文献情報データベースの代行検索サービス開始

附属図書館本館では、昭和62年10月15日より学術情報センターや国文学研究資料館、全国の大型計算機センター等が提供する情報検索サービスを代行検索という形で下記により開始いたします。

図書館の代行検索は、検索用の端末機をもっていない研究者の方々や、当該機関への利用申請していない方々のために、図書館の端末機を提供したり、館員が代って検索を行うサービスです。

検索できるデータベースのうち文科系のものは別掲（４頁）のとおりです。図書館では、従来とかくこの種のサービスに縁遠かったと思われる文科系の研究者の方々に、特にご利用をおすすめしたいと存じます。

各機関の提供するデータベースの内容や利用の詳細については、参考係に資料を用意しておりますのでご利用下さい。

記

1.	利用時間	月～金曜日の９；30～11；30、13；30～16；30
2.	担当係	参考係
3.	利用資格	本学の研究者で校費支弁の可能な方
4.	利用料金	データベース利用料金及びＮＩ使用料
5.	利用料金の精算	予算振替

寄贈図書

（本館）

濱田　清吉（名誉教授）

生活の詩冬紅葉　濱田清吉　東洋図書出版　昭和62

飴山　　實（農学部教授）

季語の散歩道　飴山實　本阿弥書店　1987

播磨　信義（元教育学部助教授）

憲法をいかす努力　播磨信義　四季出版　1987

人事異動

〔退職〕（62.9.30）

阿部　恵美子　（整理課整理係）

日　　誌

6月 5日（金）	機械化推進委員会
6月15日（月）	第49回附属図書館運営委員会
6月17日（水）	医学部分館図書委員会
6月22日（月）	第21回本館図書委員会
7月 1日（水）～2日	第34回国立大学図書館協議会総会（於　群馬県草津町）
7月 1日（水）	工学部分館図書委員会
7月28日（火）	〃　〃
9月 7日（月）	第50回附属図書館運営委員会
9月 7日（月）	第22回本館図書委員会
9月10日（木）	工学部分館図書委員会
9月21日（月）	医学部分館図書委員会
9月24日（木）	工学部分館図書委員会

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753 山口市大字吉田　電話（0839）22－6111 内線788